

令和7年度（2025年度）

長野県産業教育振興会 特別生徒研究助成 報告書

長野県上田千曲高等学校
生活福祉科 教諭 浅沼 智美

- 1 高等学校名 長野県上田千曲高等学校
- 2 学科・氏名 生活福祉科 中村 紗優（なかむら さや）
- 3 研究テーマ 高校生が考える地域の課題と解決への取り組み
～地域の取り組みを学び解決サポートを考える～

4 研究目的・概要

生活福祉科の課題研究の一分野に、将来長野県の幼児教育や母子支援、保育に関する社会福祉支援に携わり、未来を担う子供と保護者を支援する人材になりたいと学習を進めている「児童分野」がある。先輩たちの活動を引き継ぎ、地域の子どもたちとかわりながらの体験学習や、子どもたちを取り巻く環境についてさらに学びを深めたいという観点から学習を進めてきた。このような高校生たちの思いを、地域の専門職の皆さんが後輩の育成に尽力していきたいと協力していただき、地域で体験しながら学びたいという高校生たちの思いを何とか実現しようとしていただき、校内での活動だけでなく、たくさんの地域活動に取り組んでいる。その中のひとつに、生徒自身が考えを出しあい、地域の皆さんが必要とする情報を発信するためにはどのようにすればよいか話し合いを進めていきたいと考えている。

また、地域の保育園と交流体験を通し、子どもの発達について学び、かわり方や発達に合わせた遊びや学習について学習し、地域の中で子供を見守り、保護者へのサポートも充実することができるような体験学習から、子供を地域で育てていく環境の整備や連携について研究する。

5 研究過程

昨年からの取り組みに加え、今年度は地域で子供を支援する大人たちの子どもとの関わりや環境作りについての研究を積極的に行ってきた。子育ての現場だけでなく、支援をしている地域の施設や教育機関の取り組みについても学習を深めることができた。

- (1) 保育園で行われるイベントの企画、運営を通して、子どもたちの安全で楽しい環境づくりについて学ぶ

子どもと関わるなかで、名前を知ってもらいながらコミュニケーションをとるきっかけになるよう、名札作りをおこなった。校外活動をおこなう前に、子どもたちが親しみやすく認知度が高いキャラクターを調べ、制作をした。その名札を付けて、アリオで行われた「ふくしニア」での子どもたちへの遊び体験や、地域にある保育園でイベントの企画、運営や園児との交流をした。



生徒たちが手作りした名札

アリオで行われた「ふくしニア」では、子どもたちに手作りおもちゃを使った遊びの提供をした。高校生が画用紙と竹串で作った風車を子どもたちと一緒に作成し、遊んでもらえるようにした。この風車は、地域にある幼児教育を教えている先生方から高校生が教わってきたものを、保育園児でも簡単に作れるが、作成したものに達成感を持つこと、安全に遊べることを重視して高校生がアレンジした。子どもの小さい手でも持てるよう風車の軸となるところにストローをつけ、子どもが手にしやすく、竹串が刺さることのないよう工夫し、画鋸やピンなどは使わない風車を作成した。当日は多くの子どもたちが参加し、楽しんでくれた。子どもたちの遊ぶ場の安全確保と遊びの充実について保育士の目線から学ぶきっかけとなった。

保育園での活動では、毎年行われる園祭りの準備から当日運営に関わらせてもらった。事前に保育園に園児が興味を持つようなキャラクターや「お祭り」の雰囲気合わせた飾りつけになるよう調べ、折り紙や画用紙などで実際に園児が触れても怪我をしないような材料で制作した。園で準備が始まる前日の園内装飾や園庭準備から、当日の運営、片付けにかけて参加をした。高校生が作成した飾りつけを、お祭りの雰囲気が盛り上がるよう園児の目線になって園内に飾りつけた。また、当日は園内や園庭を使って行われたので、園内外の草刈りや園庭に日よけとなるテントや日差し除けシートを設置するなど、保育士の先生方と協力しながら準備を進めた。準備をしている間も、園内には時間外保育の子どもたちがいたため、保育をしながら準備を進めていく大変さや、当日までに保護者やお祭りを手伝ってくれる地域の方々との連絡調整や物品の準備の大変さを知ることができた。保育士が日常の保育をしながらの行事準備や、保護者、地域の方々に協力を仰ぐことの大切さ、お祭りを通して子どもたちを楽しませたいという園児たちへの思いを教わることができ、保育士を目指している高校生たちは保育士の多方面にわたる業務への理解を深めることができた。



保育園のイベント準備のための準備（思想、飾りつけなど）



当日の活動（移動動物園での園児とのふれあい、振り返りの会）

（2）養護学校の生活や学習環境から、教育の観点から学びへの工夫を学ぶ

養護学校の寄宿舎での支援や生活について学び、自立した生活への寄宿舎での指導、教員の子どもたちへの配慮や工夫、余暇時間等でのサポートについて学ぶことができた。洗濯物を洗って干すことや、自室の布団の出し入れ、自分の荷物や環境の整理整頓についての指導を教えてもらった。これらの指導は、生活に必要な動作は全て自分で行い自立支援がされていることがわかった。

高等部での学習や実習についても見学させていただき、同じ高校生として進路を見据えてどのような学習をしているのか、実習に向けた準備では何を中心に学習しているのかなどを教えてもらった。地域の方々に向けた販売活動での出品する品を作成している様子では、購入者のことを考えた丁寧な作品を作るために、一つひとつの品を丁寧に作成しながら、細かな部分の処理も真剣に行うことで、社会での仕事への取り

組み姿勢を学ぶ過程にもつながることを学んだ。生徒の中には作成するとき紐の長さや数を数えることに苦手意識がある生徒もいるが、生徒が使用する道具を工夫することで、生徒が一つの製品でも丁寧な作業で複数個作成できるようになることを教えてもらい、生徒が学習しやすかったり作業をしやすいう環境を整えることの大切さを学ぶことができた。

見学をさせてもらった生徒のなかには、障がいのある子どもが歯医者や美容院へ行って治療などをしてもらうときに、周囲の音や人にさわられることに過敏に反応する子供もいるのではないかと考え、個人研究としてまとめている生徒もるので、教員に質問させていただいたり、学校での健康診断等での取り組みについて教えてもらった。日々の歯磨きや生活習慣でしっかり予防することも大切だが、児童に対する保護者との綿密な情報共有や、教員間でのこまめな観察などを通して一人ひとりの児童をしっかり教員がチームになって観察し支えていくことも大切だということも教えてもらい、チームアプローチの大切さを学ぶことができた。



学校内の見学の様子

(3) 地域の居場所づくりと病児保育を支える活動を学ぶ

地域医療や病児保育、子どもを医療の観点から支えている施設について学ぶため、軽井沢にある医療法人社団にうかがい、施設や活動の取り組みについて教えてもらった。この施設では、内科や小児科としての活動のほか、在宅医療や緩和ケアにも取り組んでおり、地域とのつながりを重視していた。また、病児保育室もあり地域のなかでの子どもと親が安心して生活できる場所を整えていることを教えてもらった。診療所であるが、地域の人たちの居場所となるようつくられた施設で、0歳から100歳以上の幅広い年齢の方が利用でき、誰もが安心して生活できる場所の提供を考えられてつくられていた。この施設で働く皆さんは、さまざまな資格を持って働かれていて、リハビリ関係の資格や教員免許を持っている方も働いていた。このことから、働くためには資格が必要だと考えていたが、自分の強みや特技としているものが仕事に繋がることや、資格は働くう

えで必要になることもあるし、なければならぬこともあるが、働くなかで資格だけではない強みを生かしていくことも利用者様や地域の人たちの豊かな生活や活動に繋がっていくことを教えてもらい、さまざまな視点をもって関わることの大切さを学ぶことが、視野を広げて社会を見ることに繋げる学習ができた。この施設に来られた方が、病状や状態、年齢ではなく、好きなことをおこなう仲間として出会うことができる場所として提供もされているので、さまざまなアーティストさんに来ていただき、月に半分以上活動をしていることも教えてもらった。活動の場から、人と人が繋がるきっかけづくりとなる場所の提供になり、どんな人でも参加できるようになっている。そこから、地域の人々の居場所づくりに繋がっていることを学んだ。さまざまな制作で使われる道具などは、町の人からの寄付で整えられていて、この施設が地域のなかで「診療所」としての役割だけでないことがわかった。なかでも、医療ケアが必要な子どもの支援をしている看護師の方が、「日中は看護のケアが必要な児童も生活していて、制作されたものなどが空間を彩る部屋で過ごすことが、その子の刺激になることも少しずつわかるようになってきた」と教えてもらい、目的に合わせて場所を確保した空間で活動することも良いことだが、ひとつの空間でさまざまな活動をするのも病気や障害、年齢にかかわらずお互いを受け入れ尊重しあいながら生活ができることに繋がるのではないかと学ぶことができた。



施設について説明を聞く



地域にある図書館の館長から取り組みについて説明を聞く

6 研究成果

4つのグループに分かれて活動することで、自分たちが関心のあることに集中して取り組むことができたと思う。児童に関する地域とのかかわり方について、今までは専門的な施設や活動に重点をおいて学習してきたが、形にとらわれない取り組みや環境整備を柔軟におこなうことで、児童や保護者を取り巻く状況を別の視点から学ぶことができた。事前準備は大変なことも多かったが、活動に向けてしっかり準備することで実際の

見学や実践のなかで、学ぶことができた。しかし、予算の都合や見学場所までの移動などの課題が多く、施設への定期的な見学や行事参加ができず残念だった。定期的な見学、活動ができるように工夫し、より深く知りたい、疑問を解決したいと思う生徒たちの学びを応援していけるよう活動していきたい。